



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事  コア観察カードから正しく転記されているか?  <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)  追加変更した情報が正しく転記されているか?  <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
188	53.68	56.54	-	-	-	53.68	56.54	53.68~56.54m: 傾斜30~40°とこれらに斜交~直交する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。	-	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない	
189	-	-	53.89	53.89	傾斜20°、幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下位に幅10mmでカリ長石が濃集した脈を伴う。	53.89	53.89	53.89m: 傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下位に幅10mmでカリ長石が濃集した脈を伴う。	-		
190	55.41	-	55.41	-	55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質~やや固結した白色粘土が付着することがある。粘土脈としては連続しない。	55.41	-	55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質~やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。	-		
191	54.44	54.44	54.44	54.44	70°幅3~8mmで方解石脈が分布。上盤側境界は割れ目化する。下盤は母岩に密着しており、54.44mで65°せん断性割れ目に切られる。(変位差3mm左ズレ) 65°はせん断性割れ目で、上記の方解石脈を切っている(変位差3mm右ズレ)	54.44	54.44	70°幅3~8mmで方解石脈が分布。上盤側境界は割れ目化する。下盤は母岩に密着しており、54.44mで65°せん断性割れ目を横断する。に切られる。(変位差3mm左ズレ) 65°のせん断性割れ目は、上記の方解石脈に横断される。を切っている(変位差3mm右ズレ)割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	54.44	54.44	54.44m: 傾斜70°で幅3~8mmの方解石脈を挟む。上盤側境界は割れ目化する。下盤は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
192	54.44	54.64	54.44	54.64	割れ目沿いに砂状化とφ5mm~10mmに細片化する。	54.44	54.64	割れ目沿いに砂状化とφ5mm~10mmに細片化する。	54.44	54.64	54.44~54.64m: 割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。
193	54.44	54.64	54.44	54.64	(風化欄)δランク (変質欄)2ランク	54.44	54.64	(風化欄)γランク (変質欄)3ランク	54.44	54.64	(風化欄)γランク (変質欄)3ランク
194	54.98	55.41	54.98	55.41	(風化欄)δランク	54.98	55.41	(風化欄)γランク	54.98	55.41	(風化欄)γランク
195	54.98	55.00	54.98	55.00	(変質欄)2ランク	54.98	55.00	(変質欄)3ランク	54.98	55.00	(変質欄)3ランク
196	-	-	55.07	55.07	傾斜55°、幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	55.07	55.07	傾斜55°、幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	55.07	55.07	55.07m: 傾斜55°で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。
197	55.41	55.41	55.41	55.41	55°はせん断性割れ目で、上盤側の20°割れ目、下盤側の80°割れ目のいずれもが切られている(変位差不明)。	55.41	55.41	55°のせん断性割れ目で、上盤側の20°割れ目、下盤側の80°割れ目のいずれもが止まっている。切られている(変位差不明)割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	55.41	55.41	55.41m: 傾斜55°の割れ目で、上盤側の20°の割れ目、下盤側の80°の割れ目が止まっている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
198	-	-	55.80	55.80	傾斜60°、幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。	55.80	55.80	傾斜60°、幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。	55.80	55.80	55.80m: 傾斜60°で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。
199	56.18	56.23	56.18	56.23	56.18m・50°~56.23m・50°の各割れ目に囲まれてやや軟化する	56.18	56.23	56.18m・50°~56.23m・50°の各割れ目に囲まれてやや軟化する	56.18	56.23	56.18m・50°~56.23m・50°の割れ目に囲まれてやや軟化する。

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名・H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>				
200	56.54	56.57	56.54	56.57	変質部 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープであるが、浅部側延長部で90°~70°で大きく湾曲、下端は1箇所屈曲してシャープに連続する。φ1mm前後の石英粒とφ5~10mmの粘土化した岩片を多く含む軟弱な白色の礫質粘土で全体の色調は灰白(7.5YR 8/1)~明褐色(7.5YR 7/2)でまだら模様を呈する。厚さは10~15mmで、粘土脈浅部側の56.52m付近で粘土脈は2つに枝分かれする。	56.54	56.57	56.54~56.57m 変質部 上端60°で直線的にシャープであるが、浅部側延長部で70°~90°で大きく湾曲、下端60°で1箇所屈曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む軟弱な白色の粘土質礫状部で全体の色調は灰白(7.5YR 8/1)~明褐色(7.5YR 7/2)で、浅部側の56.52m付近で挟在する粘土脈は2つに分岐する。	
201	56.77	57.63	56.57	57.63	硬さBで堅硬である。50°~60°とこれと斜交~直交する20°~60°割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同角の低密着割れ目も分布する。	56.57	57.63	56.57~57.63m: 傾斜50°~60°とこれと斜交~直交する20°~60°の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
202	57.63	57.75	57.63	57.75	50°~60°割れ目、低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟化する。	57.63	57.75	57.63~57.75m: 傾斜50°~60°の割れ目、低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟化する。	
203	57.75	58.37	57.75	58.37	硬さBで堅硬である。割れ目そのものはわずかであるが、58.00~58.15mを中心に40°~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。また、57.90~57.37mに80°~90°割れ目が連続し、他割れ目との交差部の一部はφ3~5mmに細片化する。	57.75	58.37	57.75~58.37m: 割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40°~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜80°~90°の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部は径3~5mmに細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
204	58.37	58.85	58.37	58.85	岩片は硬さBで堅硬であるが、20°~30°割れ目と80°~90°割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、φ5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。	58.37	58.85	58.37~58.85m: 傾斜20°~30°の割れ目と80°~90°の割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、径5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
205	58.85	58.96	58.85	58.96	50°割れ目主体で、硬さCと上下よりやや軟化する。	58.85	58.96	58.85~58.96m: 傾斜50°の割れ目が主体である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
206	58.55	58.55	58.85	58.85	50°割れ目は幅10mmがφ5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色(7.5GY 8/1)の軟弱粘土からなる粘土混り岩片状を呈する。	58.85	58.85	58.85m: 傾斜50°の割れ目は直線的でシャープに連続し、面には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色の軟弱粘土からなる粘土混り岩片状が認められるが不連続で、周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	下記と同じ深度の記事をまとめて書きした
207	58.85	58.85	58.85	58.85	50°割れ目は直線的でシャープに連続し、せん断性割れ目の可能性もある。	58.85	58.85	50°割れ目は直線的でシャープに連続し、条線が見られるため、せん断性割れ目とした。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	上記でまとめて書きしたため記載しない
208	58.06	50.47	-	-	硬さBと堅硬で50°~70°割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。	-	-	58.96~59.47m: 傾斜50°~70°の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
209	59.16	59.16	59.16	59.16	45°割れ目の下盤側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、Gpとの境界は漸移的。	59.16	59.16	59.16m: 傾斜45°の割れ目の下端側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、花崗斑岩との境界は漸移的である。	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名:H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事				
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
210	59.07	59.58	59.47	59.58	30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土脈を多く挟み、全体が著しく軟化する。	59.47	60.06	59.47~60.06m:傾斜30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・記事内容がほぼ同じであるため、59.58~60.06mの記事を含めて記載した		
211	59.47	59.71	59.47	59.71	(風化欄)δランク	59.47	59.71	(風化欄)γランク	-		
212	59.58	60.06	59.58	60.06	幅1mm前後の軟弱な白色粘土脈が分布する。59.71mは硬さD、59.71m以下は硬さCの岩片からなり割れ目そのものは少ないが、細かい低密着割れ目が多い。	59.58	60.06	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない		
213	60.06	60.38	60.06	60.38	破砕部	60.06	60.38	破砕部	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
214	60.06	60.06	60.06	60.06	Hc-1(主せん断面) 45°、幅3mmの軟弱~一部半固結状の暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土。石英や岩片は含まない。直線的でシャープに連続する。	60.06	60.06	Hc-1(最新活動面)(上端が最もシャープ) 45°、幅3mmの軟弱~一部やや硬質な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土。石英や岩片は含まない。直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
215	60.06	60.16	60.06	60.16	Hb 上端45°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続するが、下端は不明瞭である。φ2~3mm石英粒、φ5~10mmの粘土化したGpを多く含む礫質粘土でやや軟弱で緑色をおびた灰白色(5GY 8/1)を呈する。厚さ約30mm~50mm。	60.06	60.38	Hb 上端45°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続するが、下端は不明瞭である。φ2~3mm石英粒、φ5~10mmの粘土化したGp岩片を多く含む粘土質礫状部でやや軟弱で緑色を帯びた灰白色(5GY 8/1)を呈する。厚さ約30mm~50mm、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	60.06	60.38	●60.06~60.38m:破砕部 60.06m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅3mmの軟弱~一部やや硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。 60.06~60.16m:粘土質礫状部(Hb) 上端45°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30~50mm。 60.16~60.38m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端不明瞭。下端60°で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土化~硬さDの花崗斑岩の岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなる。明褐灰~緑灰色を呈する。
216	60.16	60.38	60.16	60.38	Hj 上端不明瞭。下端60°で下端は直線的でシャープに連続。φ10mm前後の粘土化~硬さDのGp岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)~緑灰(7.5GY 6/1)で、厚さは270mm(コア長)	60.16	60.38	Hj 上端不明瞭。下端60°で下端は直線的でシャープに連続。φ10mm前後の粘土化~硬さDのGp岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)~緑灰色(7.5GY 6/1)で、厚さは270mm(コア長) やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
217	60.38	60.74	60.38	60.74	硬さD岩片主体で、割れ目は消滅しかかっているが、かろうじて90~60°の割れ目の一部が残留している。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟弱白色粘土脈が分布し、50°~60°~80°で石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。	60.38	60.74	60.38~60.74m:割れ目は消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟弱白色粘土脈が分布し、傾斜50~80°の石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
218	60.74	60.96	60.74	60.96	φ5~20mmの硬さDのGp岩片と粘土化した基質からなる角礫状部である。	60.74	60.96	60.74~60.96m:径5~20mmの硬さDの花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状部を呈するが、原岩組織は認められる。	-		

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
219	60.96	61.39	岩片自身は硬さBが主体であるが、低密着割れ目でないφ10~20mm主体に細片化している。岩片に粘土が付着していることが多い。	60.96	61.39	岩片自身は硬さCが主体であるが、低密着割れ目沿いにφ10~20mm主体に細片化している。岩片に粘土が付着していることが多い。	60.96	61.39	60.96~61.39m: 低密着割れ目沿いに主に径10~20mmに細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。	-
220	60.96	61.21	(変質欄)2ランク	60.96	61.21	(変質欄)2ランク	60.96	61.21	(変質欄)2ランク	-
221	61.25	61.28	15°方向に緑灰色化した岩片が分布。割れ目や表面にφ0.5mm前後の金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出。	61.25	61.28	15°方向に緑灰色化した岩片が分布。割れ目や表面にφ0.5mm前後の金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。	61.25	61.28	61.25~61.28m: 傾斜15°で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の黄鉄鉱が晶出する。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。	-
222	61.39	61.47	φ5~20mmの硬さD岩片と粘土化した基質からなる。上端20°, 下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれる。	61.39	61.47	変質部 φ5~20mmの硬さD岩片と粘土化した基質からなる。上端20°, 下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれる。	61.39	61.47	61.39~61.47m: 変質部 上端20°, 下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、径5~20mmの硬さ「D」の岩片と粘土化した基質からなる。	-
223	61.47	61.52	破碎帯	61.47	61.52	破碎部	61.47	61.52	●61.47~61.52m: 破碎部 61.47~61.52m: 粘土質礫状部(Hb) 上端5°, 下端45°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、径2~10mmの大半が粘土化したGp岩片を多く含むや、軟弱な緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の粘土質礫状部で、厚さ50mm。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-
224	61.47	61.52	Hb 上端5°, 下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒、φ2~10mmの大半が粘土化したGp岩片を多く含むや、軟弱な緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の硬質粘土で、厚さ50mm。	61.47	61.52	Hb 上端5°, 下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒、φ2~10mmの大半が粘土化したGp岩片を多く含むや、軟弱な緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の粘土質礫状部で、厚さ50mm。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	61.47	61.52	●61.47~61.52m: 破碎部 61.47~61.52m: 粘土質礫状部(Hb) 上端5°, 下端45°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、径2~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質、緑色を帯びた灰白色を呈する。幅50mm。 61.52m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅1mmの軟質な暗緑灰色粘土からなる。	-
225	61.52	61.52	Hc-1(主せん断面) 45°, 幅1mmの軟弱な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。	61.52	61.52	Hc-1(最新活動面) 45°, 幅1mmの軟弱な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	61.52	61.52	61.52~62.42m: 傾斜20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、このうち、傾斜20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟弱な暗緑灰~灰白色の粘土ないし粘土脈をはさむことが多い。	-
226	61.52	62.42	20~60°とこれに斜交~直交する50~60°割れ目からなる。このうち、20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟弱な暗緑灰~灰白色の粘土ないし粘土脈をはさむことが多い。	61.52	62.42	20~60°とこれに斜交~直交する50~60°割れ目が分布する。このうち、20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟弱な暗緑灰~灰白色の粘土ないし粘土脈を挟むことが多い。	61.52	62.42	61.52~62.42m: 傾斜20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、このうち、傾斜20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟弱な暗緑灰~灰白色の粘土を挟むことが多い。	-
227	62.38	62.38	30°はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目を切っている(変位量7mm右ズレ)。	62.38	62.38	30°のせん断性割れ目は、交差する60°割れ目を止めている。切っている(変位量7mm右ズレ)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	62.38	62.38	62.38m: 傾斜30°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
228	62.42	62.49	上端25°, 下端20°の割れ目に囲まれφ5mm前後の硬さDの岩片と粘土化著しい基質からなる。	-	-	-	62.42	62.49	62.42~62.49m: 上端25°, 下端20°の割れ目に囲まれ、径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化が著しい基質からなる。	-
229	62.49	62.74	変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)をはさむ。	62.49	62.74	変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)の粘土脈を挟む。	62.49	62.74	62.49~62.74m: 変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰赤色の粘土脈を挟む。	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
230	62.67	62.67	62.67	62.67	40° 割れ目は幅0.5mm灰赤色の軟質粘土を挟み、その下盤側幅3~12mmにφ5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。	62.67	62.67	62.67m: 傾斜40° で幅0.5mmの軟質な灰赤色粘土を挟み、その下盤側幅3~12mmに径5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。	-
231	62.74	63.29	62.74	63.29	割れ目は消滅しかかるが、70° 前後と40° 前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈ははさまないが、岩片間に淡緑灰~白色粘土フィルムが付着することが多い。	62.74	63.29	62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかるが、傾斜70° 前後と40° 前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰~白色粘土が付着することが多い。	-
232	-	-	63.03	63.04	傾斜40°、幅8mm、灰色を呈する石英脈を挟む。	63.03	63.04	63.03~63.04m: 傾斜40° で幅8mmの灰色の石英脈を挟む。	-
233	-	-	63.21	63.21	傾斜45°、幅1~3mmの灰色粘土脈を挟む。	63.21	63.21	63.21m: 傾斜45° で幅1~3mmの灰色粘土脈を挟む。	-
234	63.29	63.67	63.29	63.67	上位よりも著しく軟質化する。63.38m・30°、63.49m・55°の2ヶ所に割れ目が分布する以外は消滅し、φ10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。	63.29	63.67	63.29~63.67m: 上位よりも著しく軟質化し、径10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。	-
235	63.49	63.49	63.49	63.49	55° はせん断性割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が切られている(変位量不明)	63.49	63.49	63.49m: 傾斜55° の割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が止まっている。割れ目には幅0~1mmの暗灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名:H24-D1-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
246	65.00	70.00	(地質名欄)記載なし	65.00	70.00	(地質名欄)Gp	65.00	70.00	(地質名欄)花崗斑岩	-
247	65.06	66.65	30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°割れ目が主体で、割れ目は直線的にシヤープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まれないが、割れ目ぞいにφ5mm前後に細片化することがある。	65.06	66.65	30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°割れ目が主体で、割れ目は直線的にシヤープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まれないが、割れ目ぞいにφ5mm前後に細片化することがある。	65.06	66.65	65.06~66.65m:傾斜30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°の割れ目が主体で、割れ目は直線的にシヤープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まれないが、割れ目ぞいに径5mm前後に細片化することがある。	-
248	65.06	66.65	(割れ目状態欄)○ランク	65.06	66.65	(割れ目状態欄)○ランク	65.06	66.65	(割れ目状態欄)○ランク	-
249	65.06	65.93	(コアの形状欄)Vランク	65.06	65.93	(コアの形状欄)IVランク	65.06	65.93	(コアの形状欄)IVランク	-
250	65.06	66.50	(コアの硬さ欄)Cランク	65.06	66.50	(コアの硬さ欄)Bランク	65.06	66.50	(コアの硬さ欄)Bランク	-
251	65.09	65.31	65.09m・50°, 65.31m・60°の各割れ目ぞい、各々幅5~20mm、5mmが緑灰色化し、φ0.5mm以下の微小な金属鉱物(黄鉄鉱)が少量晶出している。	65.09	65.31	65.09m・50°, 65.31m・60°の各割れ目ぞい、各々幅5~20mm、幅5mmが緑灰色化し、φ0.5mm以下の微小な金属鉱物(黄鉄鉱)が少量晶出している。	65.09	65.31	65.09m・50°, 65.31m・60°の各割れ目ぞいに、各々幅5~20mm、幅5mmが緑灰色化し、径0.5mm以下の微小な黄鉄鉱が少量晶出する。	-
252	66.50	66.65	55~60°の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は挟まれない。	66.50	66.65	55~60°の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は挟まれない。	66.50	66.65	66.50~66.65m:傾斜55~60°の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は挟まれない。	-
253	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)Dランク	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)Cランク	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)Cランク	-
254	66.64	66.64	65°割れ目ぞい幅5mmが淡緑灰色(緑泥石化)し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。	66.64	66.64	65°割れ目ぞい幅5mmが淡緑灰色化(緑泥石化)し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。	66.64	66.64	66.64m:傾斜65°の割れ目ぞいに幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。	-
255	66.65	67.05	主として変質で著しく軟化する。上端は65°割れ目で直線的でシヤープに接するが、下端は漸移的である。φ5~20mmの硬さD主体~一部粘土化した岩片と粘土化した基質からなる角礫構造部で、基質中には処々に幅1~2mmの軟弱な粘土~粘土脈が分布する。	66.65	66.85	変質部 主として変質で著しく軟化する。上端は65°割れ目で直線的でシヤープに上位の岩盤と接するが、下端は漸移的である。φ5~20mmの硬さD主体~一部粘土化した岩片と粘土化した基質からなる角礫状部で、基質中には所々に幅1~2mmの軟弱な粘土~粘土脈が分布する。	66.65	66.85	66.65~66.85m:変質部 主として変質により著しく軟化する。上端は傾斜65°の割れ目で直線的でシヤープに上位の岩盤と接するが、下端は漸移的である。径5~20mmの硬さ「D」~粘土化した岩片と粘土化した基質からなる。基質中には所々に幅1~2mmの軟弱な粘土脈が分布する。	-
256	66.85	67.05	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	66.85	67.05	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	66.85	67.05	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	-
257	67.05	67.88	割れ目は一部が消滅、一部は60~70°主体に残留する。また、同角の低密着割れ目も多く分布。割れ目の一部に幅1~3mmの軟弱な白色~暗緑灰色の粘土~粘土脈が分布する。	66.85	67.88	割れ目は一部が消滅、一部は60~70°主体に残留する。また、同角の低密着割れ目も多く分布。割れ目の一部に幅1~3mmの軟弱な白色~暗緑灰色の粘土~粘土脈が分布する。	66.85	67.88	66.85~67.88m:割れ目は一部が消滅、一部は傾斜60~70°が主体で残留する。同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部に幅1~3mmの軟弱な白~暗緑灰色の粘土脈が分布する。	-
258	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)Dランク	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)Cランク	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)Cランク	-
259	67.88	67.88	65°はせん断性割れ目で、交差する60~70°の低密着割れ目多数を切っている(変位量不明)。	67.88	67.88	65°のせん断性割れ目は、交差する60~70°の低密着割れ目を多数止めているように見える。を切っている(変位量不明)。割れ目には挟在物が認められるが、割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	67.88	67.88	67.88m:傾斜65°の割れ目は、交差する60~70°の低密着割れ目を多数止めているように見える。割れ目には挟在物が認められるが、割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>					
260	67.88	67.98	上端65°、下端55°の割れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟化する。せん断面は分布しない。	67.88	67.98	上端65°、下端55°の割れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟化する。せん断面は分布しない。	67.88	67.98	67.88～67.98m:上端65°、下端55°の割れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟化する。せん断面は分布しない。	-
261	67.98	70.00	硬さD主体で、一部に硬さCが分布。割れ目の一部は砂状化～細片化(φ5mm前後)。全体に粘土化は殆んどないが、69.80m以深には、幅1mm以下の軟弱な白色粘土～粘土脈が少量分布する。割れ目、低密着割れ目は50～70°が主体である。しばしば、幅1～3mmの軟弱な暗緑灰色粘土を40～70°ではさむ。	67.98	70.00	硬さD主体で、一部に硬さCが分布。割れ目の一部は砂状化～細片化(φ5mm前後)。全体に粘土化は殆んどないが、69.80m以深には、幅1mm以下の軟弱な白色粘土～粘土脈が少量分布する。割れ目、低密着割れ目は50～70°が主体である。 <b>69.32m, 68.57m, 68.84mに幅1～3mmの軟弱な暗緑灰色粘土を40～70°で挟む。</b>	67.98	70.00	67.98～70.00m:傾斜50～70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、割れ目の一部は砂状化～径5mm前後に細片化するが、全体に粘土化は殆んどしていない。69.80m以深には、幅1mm以下の軟弱な白色粘土脈が少量分布する。また、68.32m, 68.57m, 68.84mには傾斜40～70°で幅1～3mmの軟弱な暗緑灰色粘土を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
262	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)Dランク	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)Cランク	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)Cランク	-
263	69.52	69.75	69.52m・70°、69.75m・70°はともにせん断性割れ目で、交差する多数の割れ目を切っている(変位量不明)	69.52	69.75	69.52m・70°、69.75m・70°は <b>ともにせん断性割れ目は、交差する多数の割れ目を止めている。切っている(変位量不明)</b> 。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	69.52	69.75	69.52m・70°、69.75m・70°の割れ目は、交差する多数の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

余白

H27-B-3

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
1	-	-	0.00	10.05	盛土	0.00	10.05	0.00~10.05m: 盛土	-
2	0.00	1.70	0.00	1.70	埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行った際の試料。い、その埋戻土。	-	-	-	・人工堆積物を盛土で一括したため試掘試料区間を区分しない
3	0.00	0.35	0.00	0.35	礫 径2~3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。	0.00	0.35	0.00~0.35m: 礫 径2~3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。	-
4	0.35	1.70	0.35	1.70	礫混じり砂~礫質砂 径2~20mm程度の花崗岩類、黒色砂岩の角~垂角礫を30%以下で含む粗粒砂からなる。ルーズ。	0.35	1.70	0.35~1.70m: 礫混じり砂~礫質砂 径2~20mm程度の花崗岩類、黒色砂岩の角~垂角礫を30%以下で含む粗粒砂からなる。ルーズ。	-
5	1.70	10.05	1.70	10.05	盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる。	1.70	10.05	1.70~10.05m: よく締った礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる。	-
6	1.70	5.27	-	-	-	1.70	5.27	1.70~5.27m: 砂	-
7	2.40	2.80	2.40	2.80	2.40~2.80m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。	-	-	-	・原位置のコアの状況ではないため削除した
8	3.50	-	-	-	-	3.50	-	3.50m以深は粗粒砂が主体となる。	-
9	3.61	3.67	-	-	-	3.61	3.67	3.61~3.67m: マンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。	-
10	5.27	5.60	5.27	5.60	砂礫 径2~80mm程度の花崗岩類、砂岩の垂角礫を含む粗粒砂からなる。	5.27	10.05	5.27~10.05m: 砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の角~垂角礫を含む粗粒砂からなる。	・盛土のうち、砂礫の区間をまとめて書きした
11	5.60	7.07	5.60	7.07	砂 中粒砂主体で塊状。 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3m/m石英粒を少量(5%未満)含む。	5.60	7.07	5.60~7.07m: 砂を挟む。中粒砂主体で塊状。ラミナなどの堆積構造は分布しない。径2~3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。	-
12	6.50	-	6.50	-	6.50m以深では締る。	6.50	-	6.50m以深は締まりが良い。	-
13	7.07	8.01	7.07	8.01	砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類の角~垂角礫を含む粗粒砂からなる。	-	-	-	・上記で砂礫の区間の記載をまとめて書きしたため削除した
14	8.01	8.37	-	-	-	8.01	8.37	8.01~8.37m: 砂を挟む。	-
15	8.37	10.05	8.37	10.05	砂礫 径2~80mm程度の花崗岩類、砂岩の垂角礫を含む粗粒砂からなる。	-	-	-	・上記で砂礫の区間の記載をまとめて書きしたため削除した
16	9.21	9.66	-	-	-	9.21	9.66	9.21~9.66m: 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部に花崗斑岩細骨材少量含む)。	-
17	9.80	10.03	9.80	9.80	9.80m付近モルタル含む	9.80	9.80	9.80m付近にモルタルを含む。	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
18	-	(着岩)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載は削除した
19	-	φ1~3m/m石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)。長石は白濁化することが多い。	10.05	180.00	花崗斑岩 φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)。長石は白濁化することが多い。	10.05	180.00	10.05~180.00m:花崗斑岩 φ1~3mmの石英、長石を斑晶とする花崗斑岩。長石は白濁化することが多い。				
20	10.05	12.96	CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが多くの風化により砂や変質粘土を脈状に挟んでいる。長石は多くが白濁化している。	-	-	-	-	10.05~12.96m:CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んで硬さ「D」である。硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが、多くの風化により砂や変質粘土を脈状に挟む。長石の多くは白濁化している。				
21	10.70	10.80	硬さ「C」の硬質岩片が残留する。	-	-	-	-	10.70~10.80m:硬さ「C」の硬質岩片が残留する。				
22	11.20	11.82	硬さ「C」主体で挟在物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を含んでいる。	-	-	-	-	11.20~11.82m:硬さ「C」主体で挟在物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を含む。				
23	11.40	11.55	割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。	11.40	11.55	割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。	11.40	11.55	11.40~11.55m:割れ目が交差し岩片化するが、劣化は伴わない。			
24	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。下部部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。下部部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。	11.82	12.00	11.82~12.00m:上下位よりも軟化する。11.97~12.00mは粘土化が進む。			
25	12.00	12.96	硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞい厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は軽度マンガン鉱染受け、面の一部は黒褐色化する。	12.00	12.96	硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞい厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は軽度マンガン鉱染受け、面の一部は黒褐色化する。	12.00	12.96	12.00~12.96m:硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞいに幅1mm程度で薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は弱くマンガン鉱染を受け、面の一部は黒褐色化する。			
26	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級。中央部はCL級が中石的に分布する。D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5mm前後の斑点状~幅1~3m/mの脈状に含んでいる。	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級。中央部はCL級が中石的に分布する。D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に硬質な砂状化が進み、所々、灰白色の粘土をφ5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状に含んでいる。	12.96	14.62	12.96~14.62m:D、CL 上端側と下端側はD級。中央部はCL級が中石的に分布する。D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目は残留しているが、全体に硬質な砂状化が進み、所々、灰白色の粘土をφ5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状に含む。			
27	13.64	14.30	硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。	-	-	-	-	13.64~14.30m:硬さ「C」の岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布する。				
28	13.64	14.30	(コアの硬さ欄)Dランク	13.64	14.30	(コアの硬さ欄)Cランク	13.64	14.30	(コアの硬さ欄)Cランク			
29	14.22	14.22	43°幅1mm軟質黄褐色粘土をはさまる割れ目(sj) 交差する80°幅1mm石英脈を切っている(変位量7m/m、右ズレ)	14.22	14.22	43°幅1mm軟質黄褐色粘土を狭む割れ目(sj) 交差する80°幅1mm石英脈を止めている。切っている(変位量7mm、右ズレ) 割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	14.22	14.22	14.22m:43°で幅1mmの軟質黄褐色粘土を狭む割れ目は、交差する80°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
30	14.30	14.62	上端17°幅1~3m/m軟質赤灰色粘土。下端50°割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。岩組織や割れ目はわずかに残留している。処々に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。	14.30	14.62	上端17°幅1~3m/m軟質赤灰色粘土。下端50°割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。原岩組織や割れ目はわずかに残留している。所々に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。	14.30	14.62	14.30~14.62m:上端17°で幅1~3m/mの軟質赤灰色粘土を狭む割れ目、下端50°の割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留する。原岩組織や割れ目はわずかに残留する。所々に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含む。			